（様式１）

学力向上のための重点プラン【小学校】

新宿区立落合第四小学校

■　学校の共通目標

授業作り	重点	１人１台のタブレット端末やICT機器を積極的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させながら、全ての子供たちの可能性を引き出す授業作りを目指す。また、各教科で振り返りの活動を充実させ、児童に自己の学習を振り返り次につなげていこうとする態度や力を育む。	中間評価		最終評価	
環境作り		学習のねらいや活動の流れ、振り返りの視点を示した掲示物を工夫し、児童が学習に見通しをもち、主体的に学習に取り組めるようにする。また、教室前面の掲示物の内容や量に配慮し、落ち着いて学習に取り組める環境づくりをする。				

■　学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課　題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（２月）
1	国語				
	算数				

学年	教科	学習状況の分析（４月）	課　題（４月）	改善のための取組（４月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（２月）
2	国語	学　平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をすらすらと読めない児童や、文章をすらすら読めていても内容の理解には至らない児童が多く見られる。 学　拗音、促音の混じった言葉や片仮名を書くことが苦手な児童が多く見られる。また、マス目の使用ルールがまだ十分に定着しておらず、拗音・促音や句読点の位置の間違いが目立つ。	・平仮名、片仮名、漢字の混じった文章をすらすらと読む力および文章の内容を理解する力を伸ばす。 ・拗音、促音の混じった言葉や片仮名を、マスの使用ルールに従って書くことや、文章の書き出しや改行に伴ったマス目の使い方について指導する必要がある。 ・習った漢字を使って文章を書く指導をする必要がある。	・国語に限らず、他教科でも授業中に音読する場面を増やす。タブレット端末の学習ソフトを活用し、継続して読み方や使い方の練習、家庭学習での復習を行う。 ・ノートや作文用紙を活用し、文章の書き出し方や、拗音、促音を正しく書く指導をする。日記や日々の振り返りなどで、「書く」時間の確保をする。 ・短文つくりで、文章での活用方法を学べるようにする。		
	算数	学　繰り上がり、繰り下がりのある計算、何十±何十、等の基礎的な計算の技能はおおむね高いが、文章題に関しては、立式や答え方等がまだ十分に身に付いていない。 学　図を描いて考えることが苦手な児童が目立つ。 学　見直しが必要であることに気付き、意識して見直しをするようになってきたが、まだ間違いをそのままにしている児童が多い。	・文章題に使える数についての理解と正しい式を立てる指導をする必要がある。また、答えの単位のつけ方について指導する必要がある。 ・授業課題やテストの見直しについて指導し、間違いをなくすようにする。	・問題文に使われている数を意識させ、「わかっていること」「聞かれていること」をおさえて立式させる。 ・タブレット端末内の学習ソフトを活用し、短時間学習の時間にも文章問題を解く練習をする。 ・見直しのポイントは何かを考えさせ、自分自身で意識さできるように指導する。		
3	国語	調　新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 80.8%だった。目標値を 3.9%上回っているものの、新宿区の正答率を 0.1%下回っている。内容別に見ると、「話を聞き取る」「言葉の学習」などで正答率が区の正答率を上回っているが、「文章を書く」が区の正答率も目標値も下回っている。「書くこと」の問題に関して無解答が多く、「指定された長さで書く」「自分の思いや考えが明確になるように書く」での誤答が多く見られた。 学　漢字の読み書きや言語については、毎日の家庭学習でも取り組んでおり、身に付いてきている。授業では、説明文や感想文、紹介文などを書くことに取り組んできたが、文を書く力がまだ十分に身に付いていない。	・問題の細部まで気を配って読み取ることが難しい児童が見られる。問題文をじっくりと読み、問題の意図や指示をしっかり把握する習慣をつける必要がある。 ・片仮名、助詞の適切な使用、文章の書き出しや改行に伴ったマス目の使い方の理解が不十分な児童が見られるため、指導する必要がある。 ・「書くこと」においては、指定された長さで文章を書くことや自分の思いや考えを文章に表す指導を行い、書く力を伸ばしていく。	・タブレット端末の学習ソフトを活用し、片仮名、助詞等、言葉の学習の復習を行う。 ・授業での作文学習を通して、片仮名、助詞の適切な使用、文章の書き出しや改行に伴ったマス目の使い方、片仮名、助詞を適切に使えるよう指導を継続して行っていく。 ・作文する前に、課題に対する話し合いを行ったり、自身の体験を想起させたり、例文や型を示したりすることで、文章に書く内容の材料となる事柄を準備させるようにする。また、文章を書いた後は、友達同士で見直しをさせたり、推敲させたりすることで、書く力を養う。		

	算数	調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 70.5%だった。目標値を0.4%、区の正答率を3.0%下回っている。内容別に見ると、「たし算」「ひき算」「かけ算」で、目標値、区の正答率をともに下回っており、文章問題における誤答が多く見られた。 学 家庭学習での練習問題への取り組みや授業での計算練習、計算方法の説明をするなどを通して基礎・基本は身に付いてきている。文章題では計算場面を確認し、児童自身が図に表して説明するなどして取り組んできたが、文に合った場面を想起し、適切に立式し計算する力がまだ十分に身に付いていない。	・問題の細部まで気を配って読み取ることが難しい児童が見られる。問題文をじっくりと読み、問題の意図や指示をしっかり把握する習慣をつけるよう指導する必要がある。 ・基礎・基本は身に付いてきているが、定着に差が見られるため、必要に応じて個別の支援も行う。 ・文章題では、文に合った場面を想起し適切に立式し計算する力がまだ不十分であるため、引き続き指導する必要がある。	・タブレット端末内の学習ソフトと紙のドリルを併用させながら、基礎基本の学習内容をしっかりと定着させていく。タブレット端末の問題では、理解度や定着度により、自分にあった課題を選択できるようにさせる。 ・問題文に使われている言葉や数を意識させ、「わかっていること」「聞かれていること」をおさえて立式させる。 ・ノートを用いて、自分の考え方を表現することを習慣化し数学的な思考力をきちんと身に付けさせていく。		
4	国語	調 新宿区学力定着度調査の結果を分析すると、文章を書く問題の正答率が 70%を超え、書く力が定着したことがわかる。毎日の振り返りや学習感想、原稿用紙を用いての意見文の学習に継続して取り組んだ成果と思われる。 学 国語辞典や漢字辞典の活用により、語彙が増え、読解力も高まった。	・全体的に学力が向上したが、学力差が大きくもなった。学年相応の学習についていけない児童への支援を組織的、計画的に行っていく必要がある。	・力が付きつつある「書く」ことを、「読むこと」とセットにして「よく読まないと書けない」課題設定をする。「対比して読む」、「関連付けて読む」など視点を設けて文章を読むことに取り組ませる。 ・学年相応の漢字が難しい児童に対しては、タブレットを活用して個に応じた内容のドリル学習を行う。		
	算数	調 新宿区学力定着度調査の結果を分析すると、基礎的な計算はできているが、計算の仕方や考え方を説明する力がまだ十分身に付いていない。	・計算の仕方や考え方について繰り返し指導し、思考力を伸ばしていくようにする。 ・学年相応の学習についていけない児童への支援を組織的、計画的に行い、基礎的基本的な能力の定着を図る。	・タブレットと紙のドリルを併用させながら、基礎・基本の学習内容をしっかりと定着させていく。 ・ノートを用いて、自分の考え方を表現することを習慣化し数学的な思考力をきちんと身に付けさせていく。		
5	国語	調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 71.9%だった。これは、全国を2.6%上回っているが、新宿区を0.3%下回っている。内容別に見ると、８つのうち７つの正答率が全国を上回り、観点別では「知識・技能」と「思考・判断・表現」の正答率が全国を上回っている。 学 班での意見交換が上手にできるようになり、物語や説明文の読み取りは、理解が深められた。漢字の読み書きや言語については、毎日の家庭学習でも意欲的に取り組んでおり、身に付いてきている。毎週、日記に取り組んだり、学習の振り返りで学んだことなどを書いたりしていたが、文を書く力がまだ十分に身に付いていない。	・「書くこと」について、指定された長さで文章を書くことや、段落を意識して書くことを指導する必要がある。また、自分の思いを文章で表すための指導をする必要がある。 ・班での意見交換では、積極的に発言する児童の考えに流されやすく、発言できない児童の考えが反映されにくいため、発言の手助けとなるような指導を工夫する必要がある。	・書くことについては、説明文の型を参考にして文章を書かせたり、フォローアップワークシートを活用したりし、書く機会を多く設定する。また文章を書いた後、見直しをしたり、友達同士で推敲したりする。 ・発言することに課題を感じている児童がいるので、発言の手助けとなるような資料をタブレットで作ったり、考えが視覚的に友達に分かるようなアプリを使ったりする。		
	算数	調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 73.8%と、全国を6.5%上回り、新宿区を1.2%上回っている。内容別にみると、８つのうち正答率が全国、新宿区を下回っているのは、「億と兆・がい数の表し方」、「簡単な場合についての割合」であった。観点別では、「知識・技能」が新宿区を下回っていたが、その他は全国、新宿区ともに上回っている。 学 計算の手順や、基本的なデータの読み取りなどの基礎・基本は身に付いてきている。しかし、それを応用して発展的な問題を解いていく力はまだ十分に身に付いていない。	・基礎・基本は身についている児童が多いので、さらに発展的な問題に取り組むための思考力を伸ばしていくようにする。 ・学級内での理解度に差があり、同一の課題に取り組むことが難しい児童には、必要に応じて個別の支援も行う。 ・友達の考えを受容し、よさを見つけ、それを活用しようとする力を伸ばしていく。	・プリントやタブレットのデジタルドリルを活用し、児童が自分に合った課題を選択できるようにする。児童の実態によっては下の学年の学習内容にも取り組めるようにし、基礎的基本的な能力の定着を図る。 ・振り返りの時間を確保し、友達の考えの良さや本時で学んだことを積み重ねていくようにする。		
6	国語	調 新宿区学力定着度調査の結果を見ると、本校の正答率は75.7%と、新宿区の平均正答率を 2.8%上回っている。領域別正答率で区の平均を下回っているのは「我が国の言語文化に関する事項」のみで5.3%下回った。 学 話すことや聞くことの定着に個人差が見られる。	・古文や漢文，近代以降の文語調の文章についての関心を高める指導が必要である。 ・話すこと、聞くことに高い意欲をもつ児童とそうでない児童の差が大きいため、タブレット端末の活用も工夫しながら指導していく。 ・小グループ内では話せるが大人数の前で話すことに苦手意識のある児童がいるため、話す力を伸ばしていく必要がある。 ・話の内容を理解したり聞いたり、自分の考えをもちながら聞く指導をする必要がある。	・親しみやすい古文や漢文などを国語科や社会科などで紹介し児童の興味関心を高めていく。 ・国語科の話すことや聞くことの学習に重点を置き、単元での指導時間を増やし指導する。 ・自分のスピーチ等をタブレット端末で録画し、見直して修正したり、友達の録画されたもの参考にしたりしながら、よりよいものをつくり上げるようにしていく。 ・国語科だけでなく他教科や特別活動の時間なども活用し、全ての教育活動を通して「聞く」「話す」について指導する。		

	算数	調 新宿区学力定着度調査では、本校の正答率は 75.4%と、新宿区の平均正答率を 4.2%上回っている。また、どの領域でも区の平均正答率を上回っている。 学 ワークテストやプリントでは、問題を読み間違えたり、単位を付け忘れたりすることが見られる。	・基礎的な学力は身に付いている児童が多いがので、さらに発展的な問題を解決する力を伸ばしていく。 ・学力の定着度に個人差が大きいため、必要に応じて個別の支援も行う。	・タブレット端末のデジタルドリルを活用して既習の学習を復習し、定着を図る。 ・自分の考えと友達の考えを比較してさらに考える時間を設け、苦手意識をもつ児童も意欲的に学習に取り組めるようにする。	
音楽	学 表現および鑑賞の活動にすすんで取り組んでいる。互いのよさや成長を認め合い、友達と共に学習することを楽しんでいる児童が多い。	・ 表現活動では、間違えることを恐れたり、自分の表現への肯定感がやや低い面が見られたりする。技能面は個人差もあるため、必要に応じて個別の支援も行う。自分の表現に自信をもち、音楽を通して自分を表現できるよう支援する必要がある。	・幅広く教材を選択したり編曲したりして児童の表現活動への意欲を高めるとともに、表現に必要な基礎的な技能を身に付けさせるために、全体指導はもとより、児童の実態に応じて個別に支援を行う。 ・自分のよさに気付き自分の表現に自信をもてるよう、児童が相互によさを言語化して伝える活動を設定したり、タブレット端末を活用して互いの表現を見合う時間を設定したりする。 ・自らの学びを振り返って次の学習へつなげたりするよう振り返りの時間を設定したりする。		
図工	学 材料に積極的に関わるとともにすすんで活動し、自分なりの表現を試して発想を広げようとする意欲的な児童が多い。	・自分の表現への肯定感がやや低く、自分の思いやイメージに合わせて、画材や素材を選び効果的に表現する力がやや弱いため、自己肯定感や表現力を伸ばしていく指導をする。	・自他の表現のよさに気付き自信をもてるように言語化して伝える活動をしたり、タブレット端末を活用して互いの作品や表現のよさを見合ったりする活動をする。 ・画材を表現に合わせて豊富に用意し、自分で選択させる活動場面や題材を多く準備し、思考力、判断力、表現力を高める。		
特支					

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況　　学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況　　※分量は 2 ページ以上となってもよい。